

1 単元名 世界と比べた日本の地域的特色

2 単元の目標

- (1) 世界と比べた日本の地域的特色に関心をもち、意欲的に追究しようとする。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境や、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きを基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。  
(資料活用の技能)
- (4) 世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境や、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きを理解し、その知識を身に付けることができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領地理的分野2内容(2)日本の様々な地域イ「世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。」を受けて設定したものである。また、「世界と比べた日本の地域的特色」の学習は、世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって、我が国の国土の特色を様々な面から大観できるものである。

(2) 生徒観

実態調査(\*年\*組 男子\*人 女子\*人 計\*人 \*月\*日実施)

1	社会科の学習で、有効だと感じている学習方法は何か(複数回答可)。 重要語句の暗記 *人 文章にまとめる *人 調べ学習 *人 学習が進んでいる人から教えてもらう *人 話し合い活動 *人 発表会 *人
2	アメリカ合衆国における放牧がさかんな地域について、平均降水量・標高を関連させ説明する問題。 関連させて説明できる *人 関連させて説明できない *人 無答 *人
3	中国の華中地域の主食について、平均降水量・平均気温・主食の分布図を関連させ、解釈し(華南地域との比較)、説明する問題。 関連させ解釈し説明できる *人 関連させ解釈し説明できない *人 無答 *人
4	Q-Uテストの結果 侵害行為認知群 *人 学校生活不満足群 *人 非承認群 *人

上記の実態調査の結果より、社会科の学習方法として生徒が有効だと感じているものは、重要語句の暗記が多い。また、文章にまとめる、調べ学習を行ったりする個人での学習や、教え合う少人数での学習に対して効果を感じている。反面、話し合い活動や発表会など、多数の前で表現することが苦手な傾向がある。資料の読み取りにかかわる問題の解答を分析すると、複数の資料を関連させることに関しては、\*の生徒が説明することができていない。解釈を加えることに関しては、大多数の生徒が説明できない。学級集団についてQ-Uテストの結果を分析すると、リレーションの確立が不十分な生徒(学校生活不満足群・非承認群)が学級の\*程度いる。すなわち、他者に対し、構えなく触れ合ったり、感情交流したりすることが苦手な生徒がいる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げる。その際、複数の資料を関連させて解釈し、説明することが必要となる。そこで、「読み取り」「解釈」「説明」の各場面をしっかりと分け、一つ一つを確実に習得させていきたい。そのためには、話し合いや教え合うこと、意見を交流させることが不可欠になる。本学級の生徒には、リレーションの確立が不十分な生徒がいる。話し合い活動や発表などの他者とのかわりのある言語活動に関しては、話し合いの仕方や発表の仕方を提示することで心的負担を減らしたり、役割分担を明確にしたグループ活動を行うことで学習活動への参加意識を高めたりできるように配慮したい。自己評価の場面においては、「友だちとの協同による学習ができたか」を項目に入れる。リレーションを高めるための手立てを行い、生徒一人一人の学習効果を上げていきたい。

4 本校の研究テーマとの関連

本校では、「主体的に学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力を育む教育の推進～各教科の特性を生かした「\*\*授業スタイル」を通して～」を研究テーマとしている。社会科では、社会的な思考力・判断力・表現力を育成することを、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力を身に付けさせることと考え、実践を行っている。具体的には、授業において、資料を正確に読み取る学習、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や事象間の関連を説明する学習に重点を置いている。本単元では、複数の資料を読み取り、世界的視野及び日本全体の視野から社会的事象を捉えた上で、習得した知識を関連させ解釈し、日本の地域的特色を説明する活動を通して、本校の研究テーマである「思考力・判断力・表現力を育む教育の推進」に迫りたい。

5 単元指導計画及び評価規準（9時間扱い）

ア 社会的事象への関心・意欲・態度      イ 社会的な思考・判断・表現  
ウ 資料活用の技能      エ 社会的事象についての知識・理解

時	学 習 内 容	学習形態	評 価 規 準	評
1 2 3 4 5	世界的視野や日本全体の視野から見た日本の自然環境について考える。	一斉 グループ	日本の地域的特色に対する関心を高め、意欲的に追究し、捉えようとしている。 日本の自然環境について、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 日本の自然環境を理解し、その知識を身に付けている。	ア イ エ
6 時	世界的視野から人口について読み取る。	一斉 グループ	複数の資料から読み取った情報を関連させ、世界的視野から人口の特色について読み取っている。	ウ
7	日本全体の視野から見た日本の人口について考える。	一斉 グループ	日本全体の視野から見た人口を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	イ
8 9	世界的視野や日本全体の視野から見た日本の資源・エネルギーと産業について理解する。	一斉 グループ	世界と比べた日本の地域的特色について、理解し、その知識を身に付けている。	エ

6 本時の学習

(1) 目標

複数の資料を関連させ、世界的視野から人口の特色について読み取ることができる。

(2) 準備・資料

①世界人口分布図 ②世界地勢図 ③世界夜景衛星写真 ④気候分布図

(3) 展開

\*\*\* は「\*\*\*授業スタイル」との関連

**授業スタイル	学習内容及び活動	指導上の留意点と評価の観点	資料
I (5分)	1 既習知識の確認をする。 (1)地勢図で造山帯を確認する。 (2)気候分布図で気候帯を確認する。 【ストレート】	・本時の学習では、造山帯や平地の分布、気候帯の分布を理解していることが必要となるため、その点に焦点を当てて確認する。 **	② ④
II (35分)	2 学習課題を知る。 資料を関連させ、世界の人口の特色を読み取ろう。 【ストレート】 3 学習課題に取り組む。 (1)人口分布図と関連させ、読み取れたことをまとめる。 ①関連させる資料を選択する。 ア地勢図 イ夜景写真 ウ気候分布図 ②人口分布図と関連させ読み取れたことを話し合い、まとめる。 (2)読み取れたことを発表する。 予想される生徒の反応 ア地勢図…平地に人口が多い。造山帯でも日本は人口が多い。 イ夜景写真…人口が多いところが明るい。アフリカは暗い。 ウ気候分布図…乾燥帯や寒帯に人口が少ない。 【トライアングル】	・資料を関連させることの例を示し、課題に取り組みやすい状況をつくる。 ・活動を振り返る場面の表現活動のまとめ方を提示することで、活動への意欲を高める。 ・課題に取り組む時間の目安を提示し、グループでの活動の時間を保障する。 ・話し合いの仕方を明示し、生徒がいつでも確認できるようにする。 ・司会者、板書者、発表者の役割を与え、やる気が低下した生徒も活動に取り込めるようにする。役割を全員に与えるため、トライアングルの学習形態とする。 ** ・まとめを発表させる際には、グループで出た意見として、発表者の心的負担を軽くする。 ・発表の手順をマニュアル化して示す。 ・読み取りに解釈を加えられている発言や記述、例外に着目した発言や記述を取り上げ、賞賛して、学習意欲を高める。 ・発表のメモをとらせたり、拍手をさせたりすることで、生徒同士の認め合いの場面を意図的につくる。	① ② ③ ④
III (10分)	4 活動を振り返る。 (1)世界の人口の特色について、自分の言葉でまとめる。 (2)自己評価を行う。 【ストレート】	・150字程度で、自分の言葉でまとめさせる。そのため、隊形をストレートに戻す。 ** ⑥複数の資料から読み取った情報を関連させ、世界的視野から人口の特色について読み取ることができたか。(資料活用の技能 ノート) ・自己評価の項目に、「友だちとの協同による学習ができたか」を入れ、リレーの高まりを確認する。	